

参加記

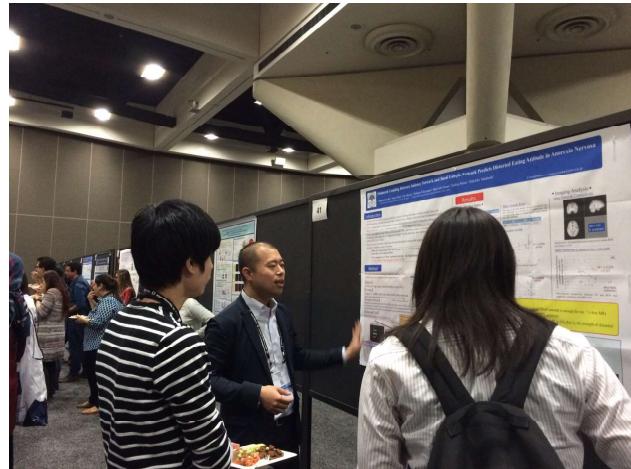
Neuroscience 2016 参加記

京都大学大学院医学研究科
脳病態生理学講座（精神医学）
磦部 昌憲

去る 2016 年 11 月 12 日から 16 日にかけて、アメリカ・サンディエゴにて北米神経科学会 (Society for Neuroscience: SfN) が開催されました。このたび私は、光栄にも JNS-SfN Exchange Travel Award を受賞させていただき、International Fellow として学会に参加してまいりましたので、現地での経験と感じたことをご報告させて頂きたいと思います。この貴重な機会を私に下さった、審査委員および指導教官の先生方に、この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。

私は今回、摂食障害患者の意思決定についてヒトの脳 MRI 画像を用いて研究した成果を報告させていただきました。学会初日に開催された International Fellows Poster Session では、International Brain Research Organization や Federation of European Neuroscience Societies の Travel Award 受賞者 や Latin American Training Program 参加者も、同枠でポスター発表をされていました。スナックを片手に和やかな雰囲気の中で、海外の活力あふれ好奇心旺盛な若手研究者の方々と、ポスターを通してお互いを知り合うことができた経験は、今後に向けて大きな財産となりました。また、同じく international fellow に選ばれた、他の日本の優秀な研究者の方々とも、受賞対象となった研究内容だけにとどまらず、それぞれが置かれている現状や今後の研究の進め方など、いろいろなことをお話しすることができ、そちらも刺激的で貴重な時間でした。

Neuroscience のポスター会場の広大さは聞きしに勝るもので、自分の研究分野に関連するものに絞ってもその数が多すぎて、さらに半日で全て入れ替えとなってしまうため、事前から興味の深いものを厳選して臨まなければならぬ



状況にあります。これが影響してか、International Fellows Poster Session で多様な専門分野の方にお会いできたことは対称的に、大会 3 日目には本発表のほうには、より深く興味を持って下さっている方が聞きに来られた印象で、結果的に掲示時間のほとんどをポスター近辺から離れることがなく過ごすこととなりました。こうして参加させていただいた 2 つのセッションで、それぞれ異なる角度から興味深いご指摘やご質問をいただけたことは、自身の研究を見つめ直すとても充実した時間となりました。

また今回 Neuroscience に参加させていただいた中で、もうひとつ個人的に大きい意味を持った体験として、同じく参加されていた日本人研究者の方々に対して、国内学会で感じたことがないほど、(勝手に、一方的に) 親近感や親密さを感じたことがあげられます。Neuroscience でお会いした方々はみな気さくで気持ちのよい方ばかりで、異なる専門分野の方と研究の接点について時間に縛られずに話し合い、コラボレーションの可能性を模索するのは、とても刺激的で心地のよいものでした。現実的で発展的なつながりへの期待感も含め、あらためて自分が日本人研究者の一員であること、日本にフィールドが広がっていることを意識するよい機会となりました。

それもこれもすべて、サンディエゴという街が、その気候、海空の広さと青さが、そして南米や移民の文化が息づく多様性に寛容な空間が、それを可能にしてくれたように感じます。Neuroscience を一大行事としてとらえている街全体の盛り上がりもその居心地の良さを高め、屈指の繁華街・ガスランプクォーターが徒歩圏内にあることも学会会場を離れた時間も充実させてくれており、またうかがいたい場所のひとつとなりました。



先般ずっと、素晴らしい研究はどんな場所で生まれるのか考えてきました。

研究者としての優れた発想力と実現力、それを可能にする研究室環境、質向上を助ける上司や同僚の存在。それだけで優れた研究は生まれるのか。神経科学界のお祭り Neuroscience に参加する機会をいただくのは初めてでしたが、今回の Neuroscience 2016 は私にそのヒントをくれるものでした。

あらためて、神経科学における自分の研究分野の客観的位置づけを知るよい機会となりました。また、同じ研究分野を違う専門性で深めている気鋭の研究者の方々との議論は、自分の研究に求められている発展の方向性にも示唆を得ることができました。日本神経科学学会の皆様のご厚意でいただいた貴重な経験を胸に、いつか還元できるよう今後も精進して参りたいと思います。

ありがとうございました。

